

3. 石橋門

- ポテンシャル
 - ・イ号館がアイストップとなり、庭園、待兼山の緑が目に入るロケーションで、中山池も近い。
- 現状の問題
 - ・有効幅員が狭く、警備員詰所、ポラード等諸要素が、主要な門としては貧相である。
 - ・現状では単なる通過動線であり、庭園周辺でくつろぐ人もおらず、庭園の景観が充分生かされていない。
- 整備方針
 - ・主たる歩行者の入口としてふさわしい整備をする。
 - ・現況の豊かな緑を残しながら、より人が集い、くつろげる空間に変えてゆく。
 - ・維持管理に費用がかからない形態を目指す。

2. 阪大坂

- ポテンシャル
 - ・湾曲した坂道は、ドラマチックなアプローチとなりうる。
 - ・中山池越しにイ号館までの眺望が得られる。
- 現状の問題
 - ・大学敷地内通路なのに、一般車両の通行が多く、公道のようである。
 - ・明確な歩道が整備されておらず、歩きにくい。
 - ・駐輪が多い。
 - ・カイズカイクキを主体とする植栽が荒れている。
- 整備方針
 - ・歩行者アプローチとして魅力的なものにする。
 - ・中山池からイ号館方向への眺望を生かす。
 - ・待兼山屋根とのつながりを生かす。

1. 阪大坂下

- ポテンシャル
 - ・背景に待兼山の豊かな緑を持ち、大学の顔となるべき位置にある。
- 現状の問題
 - ・旧医短跡地の利用が進んでいない。
 - ・駐輪場が荒れている。
 - ・阪大坂方向へメインアプローチらしい誘導がなされていない。
- 整備方針
 - ・新しい阪大の顔となる整備を行う。
 - ・歩行者アプローチとして魅力的なものにする。
 - ・総合学術博物館と駐輪場、一体的な計画を行う。

0. 待兼山

- ポテンシャル
 - ・豊かな里山の景観を良く残している。
 - ・阪大の主たる歩行者アプローチに近接。
- 現状の問題
 - ・旧医短跡地の利用が進んでいない。
 - ・里山の手入れが充分なされていない。
- 整備方針
 - ・博物館との一体的計画を行う。
 - ・待兼山ゾーンの核となる広場として、里山を保全しながら整備してゆく。

4. イ号館周辺

- ポテンシャル
 - ・キャンパス内で最も歴史ある建物であり、丘の上でランドマークとなっている。
 - ・中山池とセットで、阪大坂方向からの眺望の重要な要素となっている。
- 現状の問題
 - ・茂った高木群の為、歩行者動線からキャンパスの中心方面へ、また、中山池方向への見通しが悪い。
- 整備方針
 - ・新しい学生交流棟とセットでシンボル空間を創造。
 - ・中山池親水広場として整備する。
 - ・図書館方向、中山池方向への見通しの良い空間にする。

5. 共通教育前ゾーン (コミュニティゾーン)

- ポテンシャル
 - ・歩行者空間らしい整備がなされ銀杏並木が美しい。
 - ・浪高庭園など、豊かな緑に囲まれている。
- 現状の問題
 - ・駐輪が非常に多く、見苦しい上歩きにくい。
 - ・浪高庭園は樹木が茂りすぎて陰鬱な重たい空間となっており、休憩に利用する人も少ない。
 - ・中央の街路と建物との間の空間が有効に使われていない、特に言語文化研究棟北面は植栽が過剰。
- 整備方針
 - ・駐輪場を整備する。
 - ・中山池～乳母谷池の軸線を重視し、見通しよ街路として整備。
 - ・上記に伴い、浪高庭園は豊かな緑を生かしながら、くつろぎやすい空間の広がりを見通しの良さを持った庭園として整備する。

6. 図書館・サイバーメディアセンター周辺

- ポテンシャル
 - ・最重要な交通結節点であり、大通り、共通教育方面、グランド・東口方面へと動線・景観の繋がりを持っている。
 - ・図書館、食堂によって人の活気のある場所である。
 - ・図書館、サイバーメディアセンターがそれぞれ、現代的で美しいファサードを持っている。
 - ・乳母谷池が近接し、景観上取り込むことが可能。
- 現状の問題
 - ・バスがここで転回し大変危険な状況にある。他にも一般車両と人の動線交錯が著しく、危険。
- 整備方針
 - ・歩行者専用化し、イ号館前と対をなすシンボリック空間として整備する。
 - ・乳母谷池親水空間と一体整備して池の景観を生かし、中山池からの軸線も生かした整備を行う。

7. 大通り (基礎工前)

- ポテンシャル
 - ・メインストリートとして歩車分離が計られ美しく整備されている。
- 現状の問題
 - ・図書館近くで、実質上歩車分離があやふやである。
 - ・柴原口からの重要な歩行者動線が意識されていない。
- 整備方針
 - ・バスロータリーを整備し、これより北側では歩行者専用空間としての整備を行う。
 - ・将来計画の図書館旧館、文法経校舎改修において、シンボリック建物立面 (ファサード) を計画する。
 - ・浪高庭園方面、図書館前方面、柴原口方面、福利ゾーン方面、それぞれへの快適な歩行者アクセスを実現する。

8. 工作センター周辺

- ポテンシャル
 - ・歩行者動線上、柴原口と大通りを結ぶ重要な位置。
 - ・建物が低層で、周辺が比較的明るい。
 - ・西向きに見ると、らふおれ (食堂) や待兼池周辺がアイストップの位置を占める。また柴原口から北向きには、基礎工学研究科新館が美しく見える。
- 現状の問題
 - ・主要な歩行者動線なのに、車のための道の様相。
 - ・工作センターが老朽化している他、プレハブや、受変電設備などが多く露出し見苦しい。
- 整備方針
 - ・主要な歩行者経路として快適な街路を形成。
 - ・現工作センター北側～柴原口は歩行者専用化する。
 - ・可能な限り緑地、広場化をはかる。
 - ・将来計画建物が歩行者街路・広場に悪影響を及ぼさないようにする。

9. 柴原口

- ポテンシャル
 - ・原子核実験施設本館以南では、歩行者専用の小径になっており、草が刈られた状態では静かで快適な、比較の見通しの良い歩行者空間になっている。
- 現状の問題
 - ・主要な歩行者動線としては有効幅員が全体に狭く、かつ空間の広がりにもネック部分があって理学部裏との景観の断絶が著しい。
 - ・草刈りなどの維持管理が行き届いていない。
- 整備方針
 - ・主要な歩行者経路として快適な街路を形成する。
 - ・駐輪場を合わせて計画する。

全体共通の問題 (デザインガイドで解決提案)

1. 図書館新館など、歩行者に圧迫感を感じさせる建物がある。
2. 歩車分離・融合が不明確な部分が多い。
3. 駐輪があふれている。
4. 植栽が過剰とも思えるほど茂ったり、道に対して過剰に重層的に存在して閉鎖感を与えている部分が多い。
5. 中庭がさびれている場所が多い。
6. 建物入口部分に人を惹きつける工夫がほしい。

10. 福利ゾーン

- ポテンシャル
 - ・人の賑わいのある空間である。
 - ・文法経校舎西側など、土地に若干ゆとりがある。
- 現状の問題
 - ・十分に歩車分離が計られていない。
- 整備方針
 - ・可能な限り歩行者街路としての快適性を高めるが、重要な車動線にもあたるので歩車分離を徹底する。
- その他全学的な現状の問題
 - ・車で常時入構出来るのが正門しか無く、その他の出入口 (石橋門・柴原口以外) の運用方針が明確でない。災害時の利用などの想定が必要。



凡例

- 快適な歩行者空間または広場
- 緑地
- 池
- ランドマーク的要素
- 次項写真キープラン

